

第 42 期第 3 回理事会議事録

日 時：2022 年 7 月 27 日（水） 13 時 00 分～17 時 45 分

会 場：日本気象学会事務局（Web 会議方式）

出席理事：佐藤薫，橋田俊彦，青柳曉典，荒川知子，池上雅明，稲津將，植田宏昭，榎本剛，
齋藤篤思，佐藤正樹，高谷康太郎，竹見哲也，竹村俊彦，坪木和久，中村尚，橋
本明弘，早坂忠裕，堀之内武， 以上 18 名（理事数現在 20 名）

出席監事：鈴木靖，吉田聡，以上 2 名

その他の出席者：勝山税，斎藤誠一郎，萬納寺信崇（事務局）

議 題

1. 協議事項

1) 会員の新規加入等について

新入会員 80，退会 7 を全会一致で承認した。2022 年 7 月 22 日現在，会員数 3,356 名で個人会員は 3,162 名。

2) 第 42 期第 2 回理事会議事録の確認

議事録案について，全会一致で承認した。

3) 「天気」と関連する会員サービスの検討 WG 趣意書

「天気」の印刷を請け負う業者から来年度の入札辞退がなされ，2023 年の発行について至急検討を行う必要があること，また，42 期第 2 回理事会で行われた第 1 回ブレーンストーミングにおいて，早期に「天気」のあるべき姿を考え，関連する会員サービスのあり方を見直す必要性が確認されたことを踏まえ，「天気」と関連する会員サービスの検討 WG を立ち上げ，この問題に対処することについて趣意書により提案がなされた。2023 年の「天気」の発行について，9 月の次回第 4 回理事会に提言するスケジュールに修正の上，全会一致で承認した。

4) 掲載料免除規程の変更について

規程には掲載料免除の要件として国籍に関する規定があるが，国籍の確認は運用上困難であることも踏まえ，所属機関の要件に変更する改正案について，全会一致で承認した。

2. 報告事項

1) 業務執行理事の報告

① 庶務担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

・掲載許可

1) 申請者：日本エヌ・ユー・エス株式会社 小島 直也

掲載誌：Journal of the Meteorological Society of Japan（1995 年）

第 73 卷 (5 号), 839-847 ページ

著者 : Koichi Watanabe and Hiroshi Tanaka

タイトル : Measurement of Gaseous Hydrogen Peroxide (H₂O₂)

Concentrations in the Urban Atmosphere.

掲載図 :

Fig. 1 : Diurnal variations of concentrations of gaseous H₂O₂ (upper panel),
O_x and NO_x (lower panel) measured in the city of Nagoya during early
summer in 1993.

Fig. 3 : Monthly-averaged H₂O₂ concentrations and solar radiation in the city
of Nagoya from January in 1993 to August in 1994.

掲載先 : 環境省光化学オキシダント健康影響評価検討会資料

光化学オキシダント健康影響評価検討会 (第三回) 資料

光化学オキシダント健康影響評価検討会報告書

環境省HP で公表

・ 後援名義等使用依頼受付

- 1) 名称 : 第 34 回セミナー「再生可能エネルギー分野で活躍する女性たち」
主催 : 一般社団法人日本太陽エネルギー学会
期日 : 2022 年 8 月 2 日
会場 : オンライン開催
名義 : 協賛
- 2) 名称 : 第 50 回可視化情報シンポジウム
主催 : 一般社団法人 可視化情報学会
期日 : 2022 年 8 月 8~10 日
場所 : 工学院大学新宿キャンパス
名義 : 協賛
- 3) 名称 : 国際地学オリンピック (令和 4 年度国際科学技術コンテスト支援)
主催 : 特定非営利活動法人 地学オリンピック日本委員会
期日 : 2022 年 8 月 24 日(水)~31 日(水)他
場所 : オンライン
名義 : 協賛
- 4) 名称 : 日本ヒートアイランド学会 第 17 回全国大会
主催 : 日本ヒートアイランド学会
期日 : 2022 年 9 月 16 日(金)~18 日(日)
場所 : 千葉大学園芸学部
名義 : 協賛
- 5) 名称 : Prof. Ramanathan 2021 年ブループラネット賞受賞記念講演会

主催：環境研究総合推進費 S-20 プロジェクト

期日：2022 年 10 月 4 日(火)

場所：一橋講堂

名義：共催

- ・ 寄附者リスト（2022.6.10～2022.7.26）

なし

② 会計担当執行理事・・・以下の内容が報告された.

- ・ 2022 年 6 月分の収支及び現預金検査報告
- ・ 流動資金（運転資金）の月ごとの推移
- ・ 夏季特別セミナー補助金申請
- ・ 第 34 回日本気象学会夏季特別セミナー（2022 年 9 月 9～11 日，九州大学）会場借料について，見積もりを追加して再請求することとした.

2) 委員会報告

講演企画・・・以下の内容が報告された.

- ・ 2022 年度春季大会 アンケート結果，収支報告
- ・ 2022 年度秋季大会 準備状況

講演件数は 496 件とコロナ前に匹敵する程度に回復した.

- ・ 2023 年度春季大会・秋季大会のあり方についての打合せ

天気編集・・・以下の内容が報告された.

- ・ Vol. 69 No. 7, 8, 9 (2022 年 7, 8, 9 月) の掲載記事と，Vol. 69 No. 10, 11 (2022 年 10, 11 月) の予定記事
- ・ 掲載料免除申請 1 件
- ・ 用紙価格修正について

気象集誌編集・・・以下の内容が報告された.

- ・ Vol. 100 No. 4 (2022 年 8 月) の掲載論文，Vol. 100 No. 5 (2022 年 10 月) の掲載予定論文，審査中の論文リストと，掲載料免除申請 1 件
- ・ 科研費申請について SORA と協力して今秋申請に向け準備中

SOLA 編集・・・以下の内容が報告された.

- ・ 論文の投稿・公開状況
- ・ 2022 年 5～6 月の掲載論文：7 編

気象研究ノート編集・・・以下の内容が報告された.

- ・ 245 号「気象教育の現状と未来—教育現場から社会へ—」6 月 24 日に刊行.

表彰関連

- ・堀内賞，正野賞，山本賞の各候補者推薦委員会から 2022 年度の候補者について選定理由書が報告され，その内容について審議が行われた．受賞者の決定のため，後日に理事による電子投票を行うこととした．

- ・名誉会員の総会における承認について，候補者ごとに決議を行うことについて検討課題とされた．

学術．

- ・衛星リモートセンシングの開発・利用に携わる産学官のコンソーシアム設立の準備状況について報告され，気象学会もそのコンソーシアムに参加することが承認された．

気象災害・・・以下の内容が報告された．

- ・第 1 回情報交換会（6 月 22 日）「この夏の天候と気象災害への対応」をテーマに，委員からの話題提供と質疑，災害への対応などの意見交換を行い，天気編集委員会，教育と普及委員会からも参加があった．

- ・防災学術連携体が市民へのメッセージ「2022 年夏秋の気象災害に備えましょう」を発表（7 月 15 日）．

- ・日本学術会議公開シンポジウム／第 14 回防災学術連携シンポジウム（10 月 22 日）が防災推進国民大会 2022（神戸市）において，日本学術会議（防災減災学術連携委員会）と防災学術連携体が主催するセッション「自然災害を取り巻く環境の変化～防災科学の果たす役割」（オンライン）として開催される予定．

教育と普及・・・以下の内容が報告された．

- ・気象サイエンスカフェ今後の予定，夏季大学の準備状況

- ・2022 年度春季大会ジュニアセッションの実施報告

- ・公開気象講演会は，線状降水帯，キキクル等防災情報をテーマに開催（11 月予定）．

- ・課題として，各地方支部でもオンラインでの普及活動が行われているため，情報共有や外向けの宣伝の協力等の連携が重要になってきている．

電子情報・・・以下の内容が報告された．

- ・学会サイトについて，サイバーセキュリティの強化を行った．

人材育成・男女共同参画・・・以下の内容が報告された．

- ・委員委嘱手続き完了．

- ・広報，教育と普及との役割分担や連携についての検討が必要との認識．

3) 理事長報告

日本学術会議における「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募が開始された．

3. ブレーンストーミング

- ・前回の「天気」に関する議論についてポイントを確認した。
- ・「新たな会員の開拓」について議論を行った。主な意見は以下の通り。
 - ・気象庁職員の会員が多いが、繋ぎ止めが大事。
 - ・気象庁職員の数も減少傾向であり、年々業務が繁忙化していることと、学会員であることの魅力が見出しにくいこともあり、若手の勧誘は難しくなっている。
 - ・気象庁の業務は天気予報だけでなく、防災や社会利用等多様化する傾向にあり、相対的に気象学会と重なる部分が小さくなってきている。
 - ・学術研究だけでなく、予報士・民間を対象に応用分野にも広げる。専門分科会に企業を呼ぶ。
 - ・予報士や民間に間口を広げる場合、現状の会費は高額であるため、会費に差をつけるべき。
 - ・関東支部が無いが、サイエンスカフェ等普及イベントを関東で重点的に行う。
 - ・我々だけでは素人の議論になりがち。有識者会議を開くのも一案。コンサルも手だが、その場合はポイントを絞るべき。丸投げではうまくいかないだろう。
 - ・会員の維持と拡充では、対象者が違うので、ターゲット毎に対応を変える。

4. その他

事務局の山田眞吾氏が6月末で退職し、後任に萬納寺信崇氏が着任した。

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する。

2022年9月16日

公益社団法人日本気象学会

理事長 佐藤 薫

監事 鈴木 靖

監事 吉田 聡